

入選

## お母さんのハンドパワー

沖繩県  
石垣市立石垣小学校 三年

大瀨 倫花

「倫花、今日もマッサージしようか。」

毎ばん、お母さんはマッサージをしてくれれます。マッサージの方ほうは二つあります。

一つ目は、声かけマッサージです。私の頭から足の先までさわってなでなでしながら、

「いっぱい色んなことをお勉強したね。」と言います。目をさわると「たくさんいろんなものを見たり、読んだりしたね。」耳をさわると「たくさんさんの音やたくさんさんの人の言葉」を聞いたね。」と言います。

お母さんの手は、かた、せなかとだんだん下におりてきます。おなかのところでは、「今日食べたものがえいようとなつて大きくなあれ。」と言います。手はねんいりにしゃべりながらもみもみしてくれれます。

二つ目は、マッサージと言っても手をかざすだけ。なのに心と体がとつてもほんわかしてあつたかい気もちになり、私はすぐねむくなつてしまつたのです。

「何で、手をかざすだけで気もちいいの。」  
私は、お母さんにたずねました。

「料理をつくったり、せんたくしたり、ごみをすてたりきたないものでも平気で使う手だからだよ。」  
と答えてくれました。

なるほど、いろんなことをがんばつてやっている手だからパワーがあるんだとなぞはとけました。

お母さんの手は、小さくて太くて、けつしてネールアートやマニキュアには合わない手だけれどとつてもあつたかいむちむちした手です。

お母さんは心が広く、やさしく、あたたかく、明るい人です。だから、私はそのお母さんの手のことをハンドパワーとよんでいます。

そのハンドパワーをもらうととつてもいいゆめが見れるし、朝起きるとなやみはかいつ体のいたかつたところもなおります。何より、学校でしつかり勉強ができ、友達とも仲よく遊べて、せつこうちような二日となるのです。

そんなある日、お母さんがけつこんしきによばれました。つめにピンクのマニキュアをぬっていました。ふしぜんだけとせいいっぱいのおしゃれをしているお母さんに、

「すてきだね。」と言いました。

お母さんはにっこりわらっていました。

しかし、よく朝にはマニキュアがすつかりきえ、いつものお母さんの手にもどっていました。

その手を見て私はほつとしました。

今日も、明日も、お母さんの手はやさしくあたたかく、私の心と体をつつみこんでくれます。

「ああ、いい気もち。明日もマッサージしてね。」

と今日も私はお母さんにあまえます。

「お母さん、いつも本当にありがとう。」